

上り、雇用創出は、この2社にJ A全農を加えた3社で令和2年度97人、さらには事業拡張を予定しているグリーンラボ株の88人を加えると、将来的には全体で185人と見込まれています。

◆その他の主な調査項目◆バイオマス産業都市構想の見直しについて／二酸化炭素の今後の活用について／下水浄化センターバイオマス事業について

## 調査結果

今後、バイオマス産業都市関連事業を進めていくに当たり、次の4点について執行部に対応を求め、調査を終了しました。

- ・二酸化炭素の活用方針を早期に決定すること
- ・バイオマス産業都市としての佐賀市が今後取り組むべき方向性について明確かつ早期に示すこと
- ・適切な事業計画の見直しとその事業の着実な進捗管理を行うこと
- ・右の3点を含むバイオマス産業都市関連事業について、適宜、議会への報告を行うこと

## 佐賀駅周辺整備調査 特別委員会

2024国民スポーツ大会および全国障害者スポーツ大会の開催や、それに伴い佐賀県が進める

SAGAサンライズパーク整備など、街づくりに大きな影響を与える節目の時期を見据え、市では「佐賀駅周辺整備基本計画」に基づき市民等と意見交換を行いながら、佐賀駅周辺整備に関する詳細な内容が検討されており、その内容は、市民生活に与える影響が大きいことから、令和元年11月定例会で本委員会が設置され、これまで12回の委員会を開催し、鋭意調査、研究を重ねてきた。その調査結果について、次のとおり総括する。



### 第1段階 コムボックスの開業

西友跡地の民間開発が進められ、令和2年6月にコムボックス佐賀駅前が開業した。

来店者の動向として、Aコープのレジ通過者の数値で1日あたり2,300人程度が買い物をしていることが明らかになっており、アンケート調査の結果で1週間に1回以上来店する人が75%を占めるなど、食料品や日用品の買い物といった日常生活を支える施設として機能している。

また、観光・県産品情報発信拠点「SAGAMADO」が設置され、観光客受け入れの体制強化が図られている。

### 第2段階 北口広場・南口広場および市道三溝線の整備

佐賀駅北口広場、南口広場および市道三溝線の整備が進められており、北口広場については、本年5月10日に供用が開始された。南口広場については令和4年12月までの工期で整備が進められている。

北口広場に接続する市道三溝線は、全線で道路改良工事および歩道高質化工事が行われている。車道を2車線化し歩道を拡幅する等、道路幅員を再配分することに加え、一部区間を新たに無電柱化する計画となっており、県が進めているSAGAサンライズパーク整備事業とのつながりを重視した整備を求めるものである。

### 第3段階 民間開発の誘導

旧西友駐車場へ民間開発を誘導することが計画されている。

現在は、佐賀駅南口暫定駐車場として運営されており、コムボックス佐賀駅前が開業して以降、駐車場の利用が増加傾向となっている。

しかし、新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、開発スケジュールの大幅な見直しを余儀なくされている。事業者との協議においても、新規事業に慎重な傾向が強く出ており、期限を定めて方針を決定することが難しくなっている。

このような状況は、本委員会として十分に理解するものであるが、これまでに協議した事業者とのつながりを大切にしながら、長期的な視野に立つて検討するよう求めるものである。

## 水害対策調査特別委員会

水害による市民生活への被害の低減を目的とした市の各種施策等の調査を行うため、令和元年11月定例会で本委員会が設置され、これまで11回の委員会を開催し、鋭意調査、研究を重ねてきた。その結果として、次の4つの取り組みを執行部に求める。

### 樋門管理の連携について

浸水被害を防ぐ排水対策のため、地域ごとの意識をそろえた樋門管理の体系づくりの取り組みとして、次の3点が挙げられる。

1点目は、市内の一部地域で行っている樋門管理の体系づくりを校区や流域ごとに広げる取り組みを全市的に行うべき。

2点目は、国、県、市、樋門操作人間で事前排水の重要性を共通認識し、連携強化を図り、事前排水後の農業用水確保を含めた指揮命令の体制づくりをすべき。

3点目は、樋門操作人の必要人数を確保し、経験豊かな後継者を育てられるよ

う支援すべき。

### 保水機能強化について

内水氾濫や河川の洪水抑制のために、今後も市北部・中部の保水機能強化のための十分な調整池を整備すべき。また、南部地域では調整池設置の効果が薄いため、田んぼダムの効果を再度検証し、国の加算措置をさらに求めるなど、市全域での保水機能強化を図るべき。

### 住民への避難指示について

市民に危険な状況を的確に認知させ、適切な避難指示につなげるための取り組みとして、次の6点が挙げられる。

1点目は、河川の水位や道路の浸水状況を確認するための防災カメラの映像や、色付けした浸水標尺などを活用し、インターネット等で市民が視覚的に浸水情報を得られるようにすべき。

2点目は、河川や水路の氾濫情報の提供のほかに、冠水による市内の主な道路網の通行止めについて広報すべき。

3点目は、防災カメラの映像を夜間でも見やすくする改良や、ICT塩分測定器への監視カメラの追加も検討すべき。

4点目は、避難行動につながる防災意

識の啓発のため、単位自治会での自主防災組織の結成を促すべき。

5点目は、避難意識の向上のために、市と自主防災組織の連携を強化すべき。

6点目は、SNSなどでの避難情報の拡散は有効なため、さがメールやSNSの登録者数を増やす方策を検討すべき。



### 災害復旧に係る入札不調について

北部中山間地域での土砂災害に係る災害復旧業務の入札不調の原因は、地理的特性に対応可能な業者が限られたことや、国が定める積算方法では計上できない経費の存在も大きい。よって、市独自の上乗せ基準を設定するなど、可能な限り入札不調を回避させ、市民生活への影響を最小限にとどめる方策を検討すべき。

## 意見書

「全会一致で可決」

▼コロナ禍による厳しい財政状況に対処し地方税財源の充実を求める意見書

## 人 事

教育委員会委員の任命について同意した。

▽堤 和義 氏

人権擁護委員候補者の推薦について、異議なき旨答申した。

▽草場 栄美氏

▽鬼塚 敦美氏

▽秀島 正文氏

▽下川 晴美氏

▽浦川 弘範氏

## 佐賀市議会からのお知らせ

佐賀市議会議員選挙後の10月下旬に臨時会を、11月下旬に定例会を予定しています。

※臨時会は、正副議長・各種委員会等新しい議会の構成を決めるために開催します。

※開催日程の詳細は未定のため、決定次第佐賀市議会ホームページでお知らせします。